

付加価値のある親子留学体験談



日本の小学校、中学校の春休みを利用して現地校に留学し、ただ受身の短期留学ではなく、自分達から何かを発信する付加価値のある留学に挑戦した10歳と13歳の姉妹と、その留学を全力で支えたご両親の『付加価値のある親子留学』の体験談です！バレエ留学の夢も実現させました！

◆このご留学に参加しようと決めたきっかけは？

ニュージーランドには以前にも家族旅行で来ることがあり、大好きな国だったのと、今回は、夏の家族旅行を「暮らす」感覚で過ごしてみよう！っと家族で相談し渡航先をオークランドに決めました。NZなら短期でも現地校での体験留学を受け入れていただける学校があると伺い、オークランドは特に移民が多く、様々な民族・文化に接することに慣れている環境も魅力的ですし、娘たちはぼんやりと「将来は海外留学したい」と思っているようなので、現地の学校生活を少しでも体験できたらいいなと思いました。今回はオークランドのシティからでも通学可能な現地小学校を手配していただいたので、シティの便利さと現地校体験を両方楽しむことができました。



◆現地校でのバディー留学について教えてください。



登校初日に教室に行くとすぐにバディーを紹介してもらい、早速娘を連れて校内の案内をしてくれました。ロッカーやトイレの場所などを教えてもらったみたいです。極度の緊張状態の中で言葉の問題もあり、分らないことがあってもだれにも質問できずにはじっと我慢。。。となってしまわないか心配していたのですが、バディーがいてくれると、「困ったらまずはバディーに聞いてみようかな」となるので心強いですね。実際には、バディーだけでなく世話好きのしっかり者女子たちがいつも気にかけてくれたようで、

授業中も、先生は今こんなことをやれと言っているんだよと、ジェスチャーを交えて一生懸命説明してくれたり、次の授業のために教室を移動する必要があるときは、皆が集まってきて教えてくれたり。。。とにかく助けてくれたようです。

◆現地校での日本文化プレゼンテーションについて教えてください。

担当カウンセラーさんから、現地の小学校でのバディー留学だけでも、とても有意義なご留学になるけど、ただ単に受身の留学ではなく、留学生の側からも何かを発信する発信型の留学にすると、短期でもとても達成感のある『付加価値のある留学』になりますよ。。。っというアドバイスをいただき、とても良い機会だなと思いました。

娘達は日本で英会話に通った経験があるとはいえ、コミュニケーション手段としてはまだまだ本当に限られた語彙力しかないので、何か言葉だけの手段に頼らずに伝えられることがないかな、といろいろ家族で考えました。折り紙はけっこうやったことがある子がいそうなので、切り紙をやってみることにしました。折り紙は、途中で間違えたり諦めたりしてしまうと完成形に辿りつけないのですが、切り紙は自由に切り込みを入れていくとそれぞれオリジナルのデザインの作品が完成するのでおすすめです。



切り紙プレゼンテーションのお時間を設定していただき、当日は私（母）も主人（父）も娘たちが留学中の小学校に保護者として授業に参加させてもらいました。娘達にとってはもちろん親にとっても素晴らしい経験の機会をいただけたと思います。

娘たちも、テーブルを回って教えて（実演して）いく中で、自然とクラスメイトと交流することができたようです。このプレゼンテーションをきっかけにお友達がすごく増えたと話していました。

普段、授業に集中できず度々先生から声をかけられている男子たちが夢中になって切り紙をやってくれているのを見て、担任の先生が「毎朝、授業の前に切り紙をやろうかしら！」なんていってくれました。切り紙体験が終わって、自分の作品を大事そうにノートに挟んでしまっている女の子の姿にも嬉しくなりました。

下の娘のクラスでは、リコーダーの演奏をしました。実は、NZ では音楽の授業で笛を演奏をする機会はあまりないと聞いたことがあったので。誰もが知っているような映画音楽や学校で習った曲を練習していきました。NZ の学校では”得意なこと発表会”みたいな機会があり、ギターを練習している子やバイオリンを習っている子が自分の楽器を持ってきて披露してくれることはあるものの、皆で揃って楽器を練習したりする授業はありません。娘が、日本の小学校では高学年全員で鼓笛隊を組んで朝会で演奏すると話したらみんな驚いていました。



クラスの皆さんから、お礼にマオリのお祈りの歌を歌ってもらいました。マオリ語なので言葉の意味は分からぬのですが、心に染み入る歌声でした。

◆どのような宿泊方法で滞在されましたか？



暮らすように過ごしたかったので、今回は短期でも契約できるエアーバン&バンでテラスハウスを予約しました。オークランドには簡易キッチンのついたタイプのホテルもたくさんあり、エアーバン&バンの利用には慎重になる方もいるかもしれません、家庭用の広々したリビングキッチンはとってもよかったです。大型スーパーにも歩いていける立地の物件を選んだのも正解でした。

学校にはモーニングティー用のフルーツやスナック、もちろんお昼のお弁当も持っていきます。お弁当は敢えて日本風のものを持っていきたいというので、ソーセージと卵焼きにブロッコリーといった典型的なお弁当を作りました。案の定、クラスメイト達は興味津々で覗いてきて、簡単な海苔巻を持たせた時には「寿司ロールだ！！！」と大騒ぎになったとか。（具材は現地で簡単に手に入るきゅうりやハムチーズだったのですが、巻きすで巻いてあるだけで寿司ロールと認定してもらえたみたいです。。。）

映画に出てくるような立派なオーブンも備え付けてだったので、お世話になった方を招いて自家製ピザを焼いたりうどんを打ったり、クッキーを焼いたりして楽しい思い出がたくさんできました。

注意点としては、オークランドも公共交通機関が便利になってきているとはいえ、ローカル校に簡単にアクセスできる場所に滞在施設があるとは限らないので、レンタカーや某配車アプリを活用する必要があるかもしれません。



◆バレエ留学について教えてください。



日本でバレエを習っているので、せっかくなら NZ でもレッスンが体験できたら、と相談させていただいたところ、早速体験レッスンを受けられるスタジオを見つけてくださいました。短い留学期間にでも、娘達にとってできる限りの体験をさせたいという無理な希望にも耳を傾けてくれた現地の担当カウンセラーさん達に本当に感謝しております。

受け入れていただいたスタジオはオークランドでも 1, 2 の厳しさと言われるバレエアカデミーで、しかも進級試験直前。飛び入り参加するにはたいへん厳しい状況だったのですが、他の生徒さんの背中を見ながら必死の集中力で初見の振りにくらいついていました。本人たちは精神的にもヘトヘトになっていましたが、ものすごく刺激的で貴重な経験になりました。

今回は時間が足りなくて参加できませんでしたが、シティには 1 回ずつ申し込むタイプのチケット制のダンススクールがあり、ジュニア向けのバレエクラスもあるようです。短期滞在の場合には気軽に受講できるチケット制もよいと思いました。初心者から参加できる様々なジャンルのダンスクラスがあるので、子供が学校に行っている間に親御さんが挑戦するのもいいと思います。



◆今回のご留学で学校以外に楽しかった思い出を教えてください。

オークランドのよいところは、シティーでありながら車で 20~30 分も行けば豊かな自然や広々とした牧場が広がっているところ。私たちが訪れた 8 月は丁度子羊や仔馬が生まれた季節で、ミルクをあげたり愛らしい姿を目にすることができました。

学校帰りにビーチに寄り道して、浜辺で少し遊んでアイスクリームを食べてから帰る。。。という東京の生活では考えられない贅沢な時間の使い方が可能なのも NZ ならではではないでしょうか。

いわゆるテーマパーク施設はほぼ皆無の NZ ですが、体を動かすアクティビティは豊富です。今回大好評だったのはトランポリンパークです！広い施設の床面・壁面にいくつものトランポリンを組み合わせて敷き詰めてあって、気の向くままに飛び続けるのですが、これまで体験したことのない楽しさに皆笑いが止まりませんでした。



◆今回の親子留学を振り返ってみて全体的な感想を教えてください。

今回は2週間という短期間でしたので、英語力を伸ばすというより現地校での生活を体験してみる、暮らすように過ごしてみるというのが大きなテーマでした。

クラスメイトには日本のアニメが好きな子や、日本の若手俳優のファンでメールアドレスにも彼の名前を入れ込んでいる子もいて、娘たちよりも日本のアニメや映画に詳しかったほど。日本のエンターテイメントの浸透ぶりに驚いていました。みなフレンドリーに話しかけてくれて、どんな話をしているのかだいたいは理解できるものの、どんな風に返したらいいのかわからないもどかしさをたっぷり味わったようです。もっと伝えられる英語力を身につけたいと自身が感じてくれたことが一番の収穫だったかもしれません。



NZの授業スタイルは日本のそれとは大きく異なっていて、自分でテーマを決めてリサーチし、レポートにまとめて発表する。というスタイルが多いようでした。言葉の問題からそういった授業はどうしても戸惑いがちだった娘たちですが、算数の授業は日本に比べてずいぶんラクに感じたそうです。実は、算数はあまり得意な科目ではないのですが、

「もしも留学するなら算数（数学）は絶対に捨てられないから日本でも頑張る。」と実体験があったからこそその目標を持ってくれたことにも成長を感じました。

短期の親子留学ですと、言葉の壁を乗り越えるまでは至らないと思いますが、英語を「学ぶ」ものではなく「コミュニケーションツール」として実感することができるは貴重な経験だと思います。今はクラスルームにネット環境が整っているので、どうしても聞きたいことがうまく伝わらない時はPCの前にいって翻訳機能を介しながらお互いに伝えあったとか。なるほど嬉しいと感心しました。

少し長めのお休みがとれるならば、そんな子供たちの気づきや成長を共有できる親子留学、おすすめです。

※ご家族揃ってとても前向きに、毎日を精一杯楽しみながら留学を成功させていらっしゃいました！素晴らしい体験談、ありがとうございました！